

社名	(発行支援)業務概要	(発行支援)実績	発行支援表明	自社紹介文	連絡先
<p>DNV GL ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社</p>	<p>DNV GLビジネス・アシュアランス・ジャパン(以下DNV GL)は、生命・財産、環境の保護を企業理念に掲げ、独立した第三者機関としてグローバルな活動を展開しています。環境分野においては、ISO14001 認証機関としての活動を始め、風力発電や太陽光発電を始めとする再生可能エネルギーに関する技術専門家を有し、環境リスクマネジメントに関連する幅広い活動を通じ、環境に貢献する企業の活動支援を実施してきました。</p> <p>DNV GLは、日本での最初のグリーンボンド発行事例である日本政策投資銀行のグリーンボンド発行に際し、セカンドパーティオピニオンを発行しています*。それ以降も、欧州、アジア地域(豪州含む)を中心としてグリーンプロジェクト推進に有効な外部機関としての評価サービスをグローバルに展開し数多くの実績を積んでいます。* DNV GL 欧州部門で対応</p> <p>DNV GLはグリーンボンド原則及び関連するガイドラインや技術分野基準を理解しています。DNV GLはこれらに基づき、グリーンボンド発行前における、グリーンプロジェクトの適切性評価を行い、またグリーンボンド発行後においては、環境改善効果の検証サービス等を提供します。</p> <p>DNVGLは外部機関として、グリーンボンドがグリーンな活動に投資されることを確実にするための必要な評価サービスの提供を通じ、グローバル環境の改善による持続可能な社会の実現に加え、グリーンボンド発行体の社会的責任の達成や、更なるグリーンプロジェクト拡大を支援します。</p>	<p>日本政策投資銀行(日本) 対象プロジェクト: グリーンビルディング 債券の種類: グリーンボンド 名称: 第一回DBJグリーンボンド(第53回MTN) 発行額: 250百万ユーロ 発行日: 2014年10月7日(払込日) 日本政策投資銀行ホームページ http://www.dbj.jp/pdf/ir/credit/greenbond/001_release_ja.pdf DNVGLオピニオン http://www.dbj.jp/pdf/ir/credit/greenbond/001_opinion.pdf</p> <p>VARDAR社(ノルウェー) 対象プロジェクト: 再生エネルギー 債券の種類: グリーンボンド 名称: company's general operations 発行額: 500百万ノルウェークローネ 発行日: 2014年3月12日(セカンドオピニオン発行日) DNVGLオピニオン http://www.vardar.no/filarkiv/File/Nyheter/Vardar_green_bond_Second_Party_Opinion_Final.pdf#search=%27VARDAR+green+bond%27</p> <p>HERA社 対象プロジェクト: 気候変動、汚染防止、水処理、廃棄物処理 債券の種類: グリーンボンド 名称: corporate "Green Bond" to finance projects 発行額: 500百万ユーロ(2014-2024) HERAホームページ http://eng.gruppohera.it/group/investor_relations/financial_profile/green_bond/ http://eng.gruppohera.it/binary/hr_ir/box_contentuto_r13/Green_bond_projects_eng.1496308874.pdf DNVGLオピニオン http://eng.gruppohera.it/binary/hr_ir/green_bond/Hera_Opinion_Letter_Green_Bond_DNV.1490711130.pdf</p> <p>NATIONAL AUSTRALIA BANK(オーストラリア) 対象プロジェクト: 再生エネルギー(風力、太陽光発電) 債券の種類: 気候ボンド 名称: NAB Climate Bonds 発行額: 246百万USD 発行日: 2014年12月 CBIホームページ https://www.climatebonds.net/standards/latest-certifications/national-australia-bank DNVGL検証レポート https://www.climatebonds.net/files/files/nab-climate-bond-verification-statement-nab-final-issued-9-mar-2015.pdf</p> <p>この他にも多数の実績を有しており、必要な情報については別途提供することが可能です。</p>	<p>http://greenfinanceportal.env.go.jp/pdf/registration-list/R3.pdf</p>	<p>NVGL ビジネス・アシュアランス・ジャパン(以下DNVGL)は、外部レビュー機関として、2014 年に日本で最初のグリーンボンド(以下GB)事例である日本政策投資銀行様を始め、欧州を中心に数多くのGB 発行支援実績を有しています。DNVGL は、長年培ってきた環境技術やGB 実績で得た知見を基に、GB を通じたグローバル環境改善による持続可能な社会の実現に加え、GB 発行体の社会的責任の達成、更なるグリーンプロジェクト拡大を支援することを表明します。</p>	<p>部署名: 神戸事務所(本部) 電話番号: 078-291-1321 E-Mail: japan.info@dnvgl.com HPアドレス: https://www.dnvgl.jp/</p>

社名	(発行支援)業務概要	(発行支援)実績	発行支援表明	自社紹介文	連絡先
株式会社格付投資情報センター	<p>(株)格付投資情報センター(R&I)は、グリーンボンド支援業務(外部レビュー)として、「R&Iグリーンボンドアセスメント」と「セカンドオピニオン」を提供いたします。両者を併せて提供することがあります。</p> <p>「R&Iグリーンボンドアセスメント」とは、グリーンボンドで調達された資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度を、グリーンボンド原則(GBP)に掲げられた項目を含む5項目(資金使途、プロジェクトの評価及び選定のプロセス、調達資金の管理、レポーティング、発行体の環境活動)に従って総合的に評価し、5段階の符号(レーティング)と評価の要旨を公表し、債券の償還までモニタリングを行うものです。</p> <p>「セカンドオピニオン」とは、発行体が定めるグリーンファイナンスのフレームワークがGBP等に適合していることを評価するものです。フレームワークとはグリーンボンドの発行に先立ち、調達資金の使途、プロジェクトの評価と選定のプロセス、調達資金の管理、レポーティング等について、発行体が定める方針のことを言います。</p> <p>「R&Iグリーンボンドアセスメント」と「セカンドオピニオン」の評価方法は弊社HPに掲載しています。</p>	<p><R&Iグリーンボンドアセスメント></p> <p>①NRIグリーンボンド: 野村総合研究所が発行した省エネルギー性能の高い自社ビルを資金使途とするグリーンボンド</p> <p>②戸田建設グリーンボンド: 戸田建設が発行した浮体式洋上風力発電所を資金使途とするグリーンボンド</p> <p>③JRFグリーンボンド: 日本リテールファンド投資法人が発行した省エネルギー性能の高い商業施設を資金使途とするグリーンボンド</p> <p>④三菱地所グリーンボンド: 三菱地所が発行した省エネルギー性能の高いビルを資金使途とするグリーンボンド</p> <p><グリーンボンドモデル発行事例のガイドライン適合性確認></p> <p>①北陸グリーンボンド株式会社: 北陸3県の自治体が所有する既存照明設備を、ESCO事業によりLED化するプロジェクトを資金使途とするグリーンボンド</p>	<p>http://greenfinanceportal.env.go.jp/pdf/registration-list/R2.pdf</p>	<p>(株)格付投資情報センター(R&I)は、40年超の信用格付付与の実績を活かし、2016年9月に、国内企業としては初めてグリーンボンドへの外部評価である「R&Iグリーンボンドアセスメント」を開始しました。</p> <p>環境債に関する継続的な研究と数多くの評価経験により蓄積した知見に基づき、GBP等との適合性を評価する「セカンドオピニオン」と、環境問題の解決に資する事業に投資される程度を5段階の符号で評価する「R&Iグリーンボンドアセスメント」を提供しています。</p>	<p>部署名: ESG評価部</p> <p>電話番号: 03-6273-7694</p> <p>E-Mail: infodept@r-i.co.jp</p> <p>HPアドレス: https://www.r-i.co.jp/rating/esg/index.html</p>
株式会社日本格付研究所	<p>当社は、グリーンボンド評価(外部レビュー)を5段階の記号及び評価レポートの形で提供しております。「JCRグリーンボンド評価」は、国際資本市場協会(ICMA)のグリーンボンド原則及び環境省のグリーンボンドガイドラインに準拠しています。</p> <p>評価の対象は、GBP及びガイドラインで例示されているグリーンプロジェクト等を資金使途とする債券・ローン等の資金調達手段で、対象となる発行体の業種や分野には、次のものを含まれます。</p> <p>①事業法人、金融機関、政府、地方公共団体、国際金融機関、政府系機関</p> <p>②プロジェクトファイナンス</p> <p>③投資法人</p> <p>④資産流動化</p> <p>「JCRグリーンボンド評価」は、以下の3つのフェーズに分けて行います。「第1フェーズ」では、対象債券等の「グリーン性評価」を行います。まず、対象プロジェクトがグリーンプロジェクト適格か否かを審査します。グリーンプロジェクトに該当すると判断されれば、調達資金のグリーンプロジェクトへの充当割合に着目した評価を行います。</p> <p>「第2フェーズ」では、「管理・運営・透明性評価」を行います。発行体の管理・運営体制及び透明性について評価し、グリーンプロジェクトの実施や調達資金の使途等に関する計画実行の確かさ及び一連のプロセスの開示度(上記「グリーン性評価」実現の確かさ)を判断します。</p> <p>「第3フェーズ」では総合評価を行い、「JCRグリーンボンド評価」を決定します。</p>	<p>平成29年度環境省グリーンボンド発行モデル創出事業に係るモデル発行事例のガイドライン適合性確認認業務(独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構)</p> <p>*イー・アンド・イー・ソリューションズ、Sustainalytics社と共に実施。</p> <p>平成30年度環境省グリーンボンド発行モデル創出事業に係るモデル発行事例のガイドライン適合性確認認業務(日本郵船株式会社、三菱地所株式会社)</p> <p>*イー・アンド・イー・ソリューションズと共に実施。</p> <p>カナディアン・ソーラー・インフラ投資法人の長期借入に対するJCRグリーンボンド評価の実施。</p>	<p>http://greenfinanceportal.env.go.jp/pdf/registration-list/R4.pdf</p>	<p>弊社は1985年の設立以来、一貫して信用格付の提供を通じ、資本市場に貢献してきました。グリーンボンド評価実施に際しては、信用格付業における財務分析、業界特性や商品特性、ESG要素に対する当社の知見を活かし、また、当社が提携している国内外の環境コンサルティング・第三者認証機関等との協力を通じて、環境と財務の知見を兼ね備えた専門家集団による質の高いグリーンボンド評価サービスを提供します。</p>	<p>グリーンボンド/ESG評価部</p> <p>電話番号 03-3544-7019</p> <p>E-Mail: kajiwara@jcr.com kikuchi@jcr.com</p> <p>HPアドレス https://www.jcr.co.jp/greenfinance/</p>
株式会社日本総合研究所	<p>グリーンボンドの発行前および発行後の外部レビューとして、以下の1～3章から成るセカンドオピニオンを発行します。</p> <p>1. 発行体のESG取り組み及び情報開示に対するオピニオン ESGに関するトップのコミットメント、組織体制、目標・指標、環境配慮に関する方針・取り組み・実績、ステークホルダー(顧客/従業員/取引先/地域社会)に関する方針・取り組み・実績、ESG配慮を通じた経営改善、ESGに関する情報開示や外部との対話に対するオピニオン</p> <p>2. 発行体のグリーンボンドフレームワークへのオピニオン グリーンボンドフレームワークに関するスタンダード(環境省グリーンボンドガイドラインの他、国際資本市場協会(ICMA)が発行するグリーンボンド原則等)を参照し、4つの原則(調達資金の使途、プロジェクトの評価及び選定のプロセス、調達資金の管理、レポーティング)への準拠に関するオピニオン</p> <p>3. グリーンプロジェクトが創出するインパクトに対するオピニオン インパクト指標の設定やインパクト評価手法、インパクト評価のための情報収集・評価実施体制、期待されるインパクトの算出、環境・社会リスクの把握と低減の仕組みに対するオピニオン</p> <p>※発行後のレビュー時は、第3章のみ</p>	<p>・2017年4月と12月に、カナディアン・ソーラー・プロジェクト株式会社によるグリーンプロジェクトボンドに対して、それぞれセカンドオピニオンを発行(本プロジェクトは、英国のEnvironmental Financeより「Project Bond of the Year」を受賞)</p> <p>・2016年9月、本邦初となるソーシャルボンドとしてのJICA債に対して、セカンドオピニオンを発行</p>	<p>http://greenfinanceportal.env.go.jp/pdf/registration-list/C1R1.pdf</p>	<p>株式会社日本総合研究所は、環境・エネルギー分野における調査・コンサルティング・政策提言・新たなビジネスの創出により、地球環境問題の解決と環境貢献型ビジネスの発展に寄与することを目指しています。「環境と金融」を融合させる分野で豊富な経験を有しており、投資に関するESG(環境・社会・ガバナンス)リサーチで培った幅広い知見を活かし、グリーンボンド市場においても国内市場の黎明期より活動しています。</p>	<p>部署名 創発戦略センター</p> <p>電話番号 03-6833-2772</p> <p>E-Mail: 100860-greenbond@ml.jri.co.jp</p> <p>HPアドレス https://www.jri.co.jp/</p>

社名	(発行支援)業務概要	(発行支援)実績	発行支援表明	自社紹介文	連絡先
ヴィジオSAS	<p>ヴィジオSASは、ヴィジオアイリス(V.E)のブランド名で、グリーンボンド、グリーンローンやサステナビリティボンドに対するセカンド・パーティ・オピニオンの提供をしています。</p> <p>具体的な支援業務の主な内容は以下の通りです。 1) グリーンボンド、グリーンローン及びサステナビリティボンドに対するセカンド・パーティ・オピニオンの提供 2) ボンドの発行後及びローン実施後の年次レビューの提供</p> <p>セカンド・パーティ・オピニオンの提供にあたっては、国際資本協会(ICMA)のグリーンボンド原則をはじめとする諸原則や環境省によるガイドライン等に準拠し、①調達資金の使途、②プロジェクトの評価と選定のプロセス、③調達資金の管理、④レポーティングの4つの核となる要素についてレビューを行った上で意見表明を行っております。</p> <p>弊社の概要及びサービス内容につきましては、https://vigeo-eiris.com/をご参照ください。</p>	<p>日本国内におけるセカンド・パーティ・オピニオン提供実績</p> <p>株式会社野村総合研究所(2016年) 日本郵船株式会社(2018年) 株式会社商船三井(2018年) 住友林業株式会社(2018年) 地方公共団体金融機構(2020年) 東急株式会社(2020年)</p>	<p>http://greenfinanceportal.env.go.jp/pdf/registration-list/R6.pdf</p>	<p>ヴィジオアイリス(V.E)は、環境・社会・ガバナンス(ESG)に特化したソリューション・プロバイダーとして、30年以上の経験を有しております。これまでに世界各国で250件以上のサステナブル・ファイナンス案件に対してサービスの提供を行って参りました。今後とも、グローバルな視点に立った質の高いサービスを提供することで、日本そして世界の金融・資本市場のサステナブルな発展に貢献して参ります。</p>	<p>部署名: 発行体部門 / サステナブル・チーム / 日本担当 電話番号: +33 1 55 82 32 40 E-Mail: vespoj@vigeo-eiris.com HPアドレス: https://vigeo-eiris.com/</p>